

カブの生長段階による農薬吸収特性の解明

【研究概要】

コカブから大カブまで出荷形態が異なるカブでは、登録のある農薬が大きさに関係なく散布できるため、収穫物のサイズによって残留挙動が異なることが懸念される。そこで、随時どりができる品種「スワン」でコカブと中大カブとを比較し、農薬残留性を明らかにすることを目的に試験を実施した。その中で今年度は下記の3つ成果が得られた。

- (1) コカブに使用方法に則してジノテフランを施用したところ、収穫可能日には葉と根ともに基準値以下であった。
- (2) 葉：最終散布1、3、7日後の残留濃度は、コカブは中大カブより多く残留していたが、基準値6ppm以下であった。コカブの葉身は中大カブと変わらないが、葉柄が細いため重量当たりの表面積が大きくなり残留濃度が高くなったと考えられる。
- (3) 根：最終散布1、3、7日後の残留濃度は、収穫物の大きさに関わらず基準値0.5ppmを大きく下回った。